

2017 年度活動報告 関学日本語教育研究会

長谷川 哲子（関西学院大学経済学部）

1. 第 20 回 関学日本語教育研究会

第 20 回は 2017 年 3 月 4 日に開催した。

今回は、言語教育に関わる 4 技能のうち、読解を扱うものとして企画した。「読解研究と言語教育」をテーマとして、長岡技術科学大学の柴崎秀子教授を講師としてお迎えした。今回の研究会は 2 部構成とし、第 1 部の講演会では、「読解研究の知見は言語教育に生かせるか」と題して、読解研究に関わる屈指の研究者としてご活躍なさっている柴崎教授の研究活動、およびその研究成果、そしてその研究成果から得られた非常に豊富な知見、さらに言語教育や日本語教育に関してご講演いただいた。第 2 部は「読解教育の理論と実践」をテーマとして、ワークショップを開催し、参加者全員によるグループワークを行った。最後に、グループワークの内容をワークショップ全体で共有し、それぞれのグループの発表内容に対して、柴崎教授よりコメントをいただいた。

今回は学外からも広く参加者を募り、様々な機関で日本語教育に携わる方からご参加いただくことができた。ワークショップは熱気と活気に満ちたものとなり、参加者個々がそれぞれの立場から読解教育に対して大きな関心を寄せていることが感じられた。

講演とワークショップの 2 部構成により、日本語教育の主軸的な活動である読解についての理解や知見をよりいっそう深めることができる有意義な機会となった。

2. 第 21 回関学日本語教育研究会

第 21 回は 2017 年 7 月 28 日に開催した。

今回の発表者は 2 名であり、それぞれの発表題目は以下のとおりである。

1) 発表者：藤原由紀子（日本語教育センター言語特別講師）

発表題目：日本語を使用言語とした多文化共修授業のデザイン

2) 発表者：山本真理（日本語教育センター准教授）

発表題目：相互行為における「聞き手」